

「〇」（わ）1997年号
平成4年（1992）11月創刊
平成9年（1997）12月15日発刊
通算第4号



編集発行 武蔵大学剣友会
編集協力 長谷川 勲
日暮 道生
水木 征二
紙谷 正之
松井 邦夫
撮影協力 矢倉 美喜代

第三回剣友会合宿 開催

第三回剣友会合宿は、昨年と同じく、南房総県立安房農業高校の剣道場で平成九年十一月十五日（土）稽古十五時～十七時十六日（日）稽古九時半～十一時の両日にわたり行いました。

参加人員は十八名
長谷川勲・土屋一徳・日暮道夫・水木征二・紙谷正之・松井邦夫・亀井（旧石川）妙禮・菅田（旧永瀬）雅人・佐藤則夫の会員九名と会員同伴者五名。亀井氏は地元の日蓮宗住職婦人。昨年の合宿から稽古を再開し、今も続けています。水木・松井両氏は稽古には参加せず、もっぱら世話係として、活躍しました。

加えて特別ゲストとして警視庁より西川清紀先生・竹内三郎先生・松森信秀先生・竹内Jrの四氏をお迎えして昼は猛稽古、夜は酒を酌み交わしながらの剣道談義、人生相談はまた禅問答と実に楽しく有意義な二日間を過ごしました。西川先生は現在、警視庁剣道指導教室で教士として後進を指導中。過去全日本剣道選手権を三度制覇、本年も最年長選手として武道館で活躍されました。

竹内先生は池袋にある第二自動車警ら隊で助教を勤めておられます。松森先生も剣友 坂井達郎氏の勤務する警視庁赤坂警察署で助教を努めておられます。

二十三歳警視庁武道専門学校で特練生として精進を重ねておられ、将来を嘱望される警視庁のホープです。三先生はいずれも、剣友 土屋一徳氏と親交があり、氏の懇請により第一回の秩父合宿以来ご指導をいただいております。

県立安房農高の武道場は独立した建物で一階柔道場、二階が剣道場となっており、スプリングの良く効いた床、反響のすばらしい道場でした。同校には剣友 菅田 雅人氏が奉職しており、剣道部顧問として日夜生徒達を指導しておられます。道場、更衣室等の清掃は行き届き、整理整頓が実践されていることに菅田氏の教育方針を感じられ、わがことのようにうれしく思いました。

昨年の私達の合宿が評判になったせいか（？）安房農高では今年一挙に十一名の新人部員を迎えたそうです。我が武蔵大学にとってはなんともうらやましい限りです。

警視庁の先生方から直接指導を受けられる絶好のチャンスと安房農高の部員は勿論、地元の中、高校からも顧問の先生同伴で大挙して参加、道場満杯の盛況でした。

そんな中で面打ち、両面打ち、小手面胴打ち、掛稽古、切返しに時間の大半を割き、基本を繰り返しました。例えば切返し一つとってみても正確な打左足を引き付ける正しい足運び、気合を大きく長く延ばす呼吸等、正しい剣道とは基本がいかに大切であるか、たとえ時間は短くとも真剣に取組む心構えこそが上達への王道である事を改めて学んできました。

宿舎は千倉町にある温泉の宿「矢原荘



県立安房農業高校での合宿

荘気候温暖、花咲き乱れる南房総瀬戸海岸に面しており新鮮な海の幸、山の幸に加えて民宿の皆さんの暖かい、おもてなしで、しばし時の経つのを忘れてしまうほど、おおいに飲み、且つおおいに語らった本当に楽しい一夜でした。

来年も又、南房総での合宿がほぼ決定しております。剣友の皆さん是非参加して見ませんか。警視庁の先生方や地元剣友達と汗を流し、剣の「和」を広げる事で、あなたの剣史にきっと新しい一ページが開かれることと思います。

（水木征二記）

日暮・紙谷両剣友 同時六段昇段

☆去る5月11日、六段に昇段されたお二人に手記を寄せていただきました☆

思い立ったら 即実行

わたしは皆さんのように青春時代を剣道一筋に歩んできたのでありませぬ。卒業時には雀荘の伯母さんからお祝いに一升ビンを貰うような生活でした。何かをやりとげて卒業したという実感をもてず、いつも半端でストレスのたまった人生を歩んでいました。

家庭をもち子供との責任ある会話を考へる様になり子供達が警察の少年剣道部でお世話になり始めると共通の話題で語り合い、共に汗を流すのは良い事と、思うようになりまして。

四十の手習い、いや四十五才から始めましたが理論は理解できても、手足がいうことをきいてくれませぬ。しかし警察の助教の指導のもとに小学生と一緒にスリ足、素振りと一生懸命やりました。初段から五段迄二発合格、そしてこの五月十一日名古屋で、紙谷君と一緒に合格出ました。剣道を初めて十三年、こんな嬉しい事はありません。人生の後半から始めたことですので、少年時代・学生時代からやっていた人とは、違った点があると思うのですが心にある幾つかの思いを述べたいと思います。

①自分の交流に新しい輪が出来たこと。自分には四つが異なった交流の輪があります。剣道の稽古を通して五輪となり新たに友人が増えました。特に武蔵では同期の岡田君、土屋君、村田君

の推薦によって剣友会の一員にさせて戴きました。

在学中は剣道をやっていかなかったにもかかわらず、八年間も練習に励んでいたのならば入会も良しと言うことでした。

長谷川会長以下、現役に至るまで、励ましの声をかけて戴き、力強い思いです。関根先生は、当時西東京の会長で講習会等でお会いしよく存じておりましたが、入会後は、国立練心館でも稽古をつけていただいたり、武蔵大学剣道部OBとして紹介をして下さいました。

土屋君には警視庁や警察署、講習会に誘ってもらい、多くの先生と稽古をする機会を得ています。

武蔵大学剣友会の練習、試合、合宿に参加し、多くの剣友と交りを深めてもらっています。

②中年から始めた剣道は試合に勝ったり選手になることが、目標ではありません。肉体的、精神的に健康であること。少年達に正しい剣道を普及する一助となることです。其のために、指導者として相応しいかどうかを、昇段審査で評価して戴こうと思いました。わずか2分の実技を通して、気持ちはどう審査員に伝わるかを課題にしました。六段受審にあたっては、全ての挑戦者者以上の準備と集中力で望みました。前日より泊りこみで審査場にのぞみ、半年前から自分で確認しておいた二五項目のチェック事項と二一の持参品の確認と点検。それでも平常の稽古の再現は大変でした。当否は五分五分かなと思っていたので発表を見た時の喜びは格別でした。

うかりたい信念と準備がこの喜びをもたらしてくれた事、そして、決して一人て出来た事ではなく、先生・剣友諸兄弟と二人三脚でなした事と深く感謝する次第です。

「思い立ったら吉日」という言葉があり

ますが何もしないで通り過ぎるのでなく、即実行が大切な事と思えます。

私は、若い時期に激しい稽古してきたOB諸君がうらやましい。

でも、仕事等の忙しさの故に中断されている方、思い立ったら吉日で始めましょう」

昭三十九年卒 日暮道生



6. 21昇段記念稽古会での日暮(左)・紙谷(右)両氏

気がついたら 六段になっていた

息子が小学校に入学したときに、元の剣友会から子供達へ誘いがあつたので娘と息子連れて見学に行きました。その折に「お父さんは剣道をした事がありますか」と尋ねられ

「四段です」と答えると、その場で「紙谷先生です」と紹介され、単純なきっかけでしたが、剣道を再開する事になり、以来八年が経ちました。会社での立場もあり、怪我をして休む訳にもいれないと思いつながら、怖々竹刀を振り始めました。とにかく最初の一年は、娘や息子と遊ぶつもりで、そして何より自分の健康の為と思いつながら、柔軟体操と子供達の基本打ちの相手をするだけでよしとしていました。

それが結果的に、良い方向に働いて現在まで続けられることになったのだと思つています。それ以来、子供達との触れ合いを中心に、自分なりに楽しんで稽古をし、子供の剣道大会の付添いをするうちに、剣友会から練馬区の審判員への登録を要請されました。同区の審判員の条件が五段以上とのことで五段を受験し昇段しました。その時感じたのですが、大学時代に基本をしっかり身につけた人はその後の人生経験で培われた精神力がプラスされて、本人が感じる以上にしっかりと剣道になつていくのではなにかという事です。

今、剣道を再開して一番良かったと思うことは、ストレス解消効果の大きい事と娘(高校二年・剣道二段)と息子(中学二年・剣道初段)と共通の話題をもてたことです。精神安定をどう保ちうるか」と親と子の対話は現代の大きなテーマだと思えます。

会社や仕事上の付き合いを忘れ、自分の気持ちのまま気楽に伝え、自由に付合える剣道の仲間との交流は、今かけがえの無い物になつてます。

かわい子供達と、そして楽しい仲間と剣を交え、人生を語るうちどどん面白くなつてきて...

気がついたら六段になつていた!

昭四四年卒 紙谷正之

山本順子選手 関根・伊能両杯優勝

第十九回関根杯・第十回伊能杯が去る十一月二十四日武蔵大学体育館に於いて、関根名誉師範・伊能婦人萩生専務理事ご出席のもとで開催されました。その結果今春卒業の山本順子さんが、両杯とも優勝されました。

これは平成五年卒業加藤（現安達）優子さんの両杯制覇以来五年ぶりの快挙です。

参加選手は、関根杯一九名（先輩八名）・伊能杯九名（先輩一名）でした。

試合の結果は次のとおりです。

- 関根杯**
- 優勝 山本順子(平九卒)
 - 準優勝 谷川真悟(一年生)
 - 三位 大原利友(四年生)
 - 一杉太一(二年生)
 - 敢闘賞 土持博和(昭六一卒)
- 伊能杯**
- 優勝 山本順子(平九卒)
 - 準優勝 福田公子(三年生)
 - 三位 下田由紀(四年生)
 - 桜井紀子(三年生)
 - 榎木千恵子(一年生)
 - 敢闘賞

関根杯参加の先輩は次の通りです。

長谷川(昭三七卒)土屋・日暮(昭三九卒)紙谷(昭四四卒)渡辺(昭四五卒)土持(昭六一卒)中野(平九卒)山本(平九卒)

特に今回は、昭和四四・四五卒の同期生安藤・谷本・石井・野宮・広瀬・松山・松井の諸先輩も各地から集まり、後藤、水木両先輩も応援に駆けつけました。

また昭四八卒の矢倉美喜代先輩には、写真撮影の労をお願いしご協力いただきました。

来年はより多くの諸先輩に参加していただき、お互いに腕を振るうと共に旧交

を温めたいと思います。



両杯優勝の山本さん (前列右から2人目)

少年・少女

交換稽古会 開催される

十一月二四日、武蔵大学体育館に於いて、「交換稽古会」が関根杯終了後に行われました。

これは各地の剣友会員の中で少年少女の指導をされている方がかなりの人数になり、この方達と剣縁をつなぐとともに、少年達が属している地域・学校以外の多くの人達と剣を交える機会を作ることを目的として行ったものです。

初めての試みでもあり、どうなることかと心配もあったのですが、紙谷先輩(昭四四卒)・関根先輩(昭五〇卒)・星壘先輩(旧制)のご協力により四つの剣友会の少年少女達五〇名(小学生四四名・中学生四名・高校生二名)の参加を得、盛会裏に終了しました。



交換稽古会

稽古の内容は、三九卒の土屋先輩の指導、紅白試合、地稽古を各々一時間というものでした。

内容については、参加された方々のご意見を参考にしながら、今後改善を加えていきたいと思っております。

来年も関根杯の後に、この稽古会を計画しております。参加ご希望の方は連絡係松井迄ご連絡下さい。特に剣道が続けている高校生にお知合いのある方は、お一人でもご紹介ください。

長谷川 記

新師範紹介

この度師範が交代し、松森信秀氏が新師範に就任されましたのでご紹介いたします。

氏は、昭和二十七年熊本県に生まれ、四十六年上京、警視庁に入られ、五十七年に武道専科を終了後、空港警察・警察学校等各地の警察署で後進の指導をされ、現在、警視庁赤坂警察署で助教をなさっております。お住まいは、学校にも近い清瀬で、小学生と中学生の二人の男児をお持ちです。

「正しく楽しく・仲よく」を座右の銘とされている、謙譲・温厚なお人柄で、学生とともに、一緒に剣道を学ぶ事を前提に、指導を引き受けても良い」とのお言葉を戴き、師範に就任していただきました。

今後、渡辺(欽)監督と緊密な調整をとりながら指導していただき、武蔵大学剣道部の更なる発展を期したいと思います。

剣友諸兄弟にも、機会ある毎にお会い戴いて、そのお人柄に触れて戴きたいと思っております。



第八回学連剣友剣道大会

武蔵B昭和対に快勝

去る十二月七日東京武道館で開催された学連剣友剣道大会に当剣友会から三チームが参加し、Bチームは昭和大学に快勝し、第二回戦に進出しました。

武蔵大三チームの選手は次の通り。

Aチーム	Bチーム	鳳凰杯
先鋒高橋 呉	猪股 八八	土屋 三三
次鋒欠場	浜岡 三二	
三鋒笹川 三	土持 三六	
中堅藤木 三五	関根 三五	日暮 三五
三将笹岡 三五	佐藤 三五	
副将紙谷 三四	眞谷 三四	
大将坂井 三四	渡辺 三四	長谷川 三三

※名前の下は、卒業年次。昭和 H 平成

※鳳凰杯は五五歳以上の三人制

同日九時から始まった大会でAチームは、玉川大学と対戦。惜しくも敗れたが、Bチームは昭和大学と対戦し四勝三分の好成績を収めた。



試合前整列するAチームのメンバー



鳳凰杯で対戦中の土屋七段

鳳凰杯は明治Bと対戦、二分一敗と惜敗した。近住の武田(旧元吉)美代子先輩も応援に駆けつけ、来年は是非女子も参加したいと語った。その後、午後三時から会場を綾瀬駅東口割烹「あらかわ」に移し、旧制高校萩生、岡田、星埜の三先輩も加わり盛大に本会忘年会を開催した。来年の大会もほぼ同時期に開催が予定され、本大会終了と同時に参加募集を開始した。参加希望者は関根剛学連幹事(東武ビル管理棟(四三六一五七))まで、ご連絡下さい。尚、参加希望者には十一月に開催する合宿と関根杯、伊能杯への参加も併せてお勧めします。

三期合同同期会

八月九日四ツ谷(越後路)にて、三期合同同期会が開催されました。昭和四二年卒業(通称二十八金会)の中邑、緑川両氏の呼びかけに、同四三年卒の水木氏と同四四年卒(通称獅子の会)の紙谷氏が応じたものです。

同日開かれた剣友会幹事会の出席者も合流し、二十八名の大宴会になりました。

持ち込みのお酒もアツと言う間になくなり、予算も軽くオーバーの飲み方は卒業以来約三十年経った今も、学生時代とほとんど変わりがあります。大阪から参加の伊藤巖さん(四二卒)は、失業中も何のその、二次会では、マイクをもち続ける元気でした。従って、解散の時間は不祥です。

続く三期合同同期会は、昭和四四年卒から四六年卒までの三期。十一月二十三日(日)江古田の「鳥信」で開かれます。

年度会費納入のお願い

今年度の会費未納入の方は左記へお振込下さい。尚、年度会費は男性一万円以上、女性は三千円以上です。増額をご希望の方は大竹会計幹事まで(ミナト商会〇三三三四〇二一九五七一)ご連絡下さい。

口座名義 武蔵大学剣友会 大竹茂雄

第一勧業銀行渋谷支店

普通口座 一五二五三三四

東京三菱銀行渋谷支店

普通口座 六八三三二九一四

便利な自動振替をご希望の方は、連絡係 松井へご連絡下さい。

寄付は一口千円以上 無制限で受け付けております。

北海道から広瀬、野宮両氏(昭四四卒)鹿兒島から三浦氏(昭四五卒)、松江の谷本氏(四四卒)、大阪の松山氏、(同)と遠方からも大勢参加されました。四七卒の大塚氏も何処かで聞き付け飛び入り参加しました。勿論、この様な集まりは卒業以来初めてで、約束の四時間が瞬く間にすぎました。翌日は、関根杯、伊能杯の観戦をし、久しぶりに関根名監督範と語りました。この合同同期会からは、会費の余剰金三万円が、当剣友会に寄付されました。皆さんも合同同期会を開きませんか。会場探しからご同期への連絡まで剣友会でお世話致します。連絡係松井(〇三三三三五八〇五)へお申込ください。



石井 片桐 石崎 大塚 松山 谷本 三浦 松井 紙谷 野宮 安藤 渡辺 長谷川会長